

## 《薬局サーベイランスコメント》

『第 48 週 (11 月 26 日～12 月 2 日) よりインフルエンザの全国的な流行開始、  
12 月に入り流行は更に拡大していくと予想される』

2018 年 12 月 4 日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス  
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>) によると、今  
シーズン (2018/2019 年シーズン) の 2018 年第 48 週 (11 月 26 日～12 月 2 日) のイ  
ンフルエンザの 1 週間当たりの推定患者数は 36,580 となりました。前週の値 (第 47  
週 ; 18,599) の 2 倍近い急激な増加であり、薬局サーベイランスにおける全国的な流行  
開始の基準値 (週当たり推定患者数=30,000/week) を今シーズン初めて上回りました  
(図 1)。また、休日明けの今週 (第 49 週) の月曜日 (12 月 3 日) の 1 日当たりの推  
定患者数は 11,447 と今シーズンこれまでの最高値 (7,157) を大きく上回っていて、今  
週も患者数は大きく増加していくと予想されます。

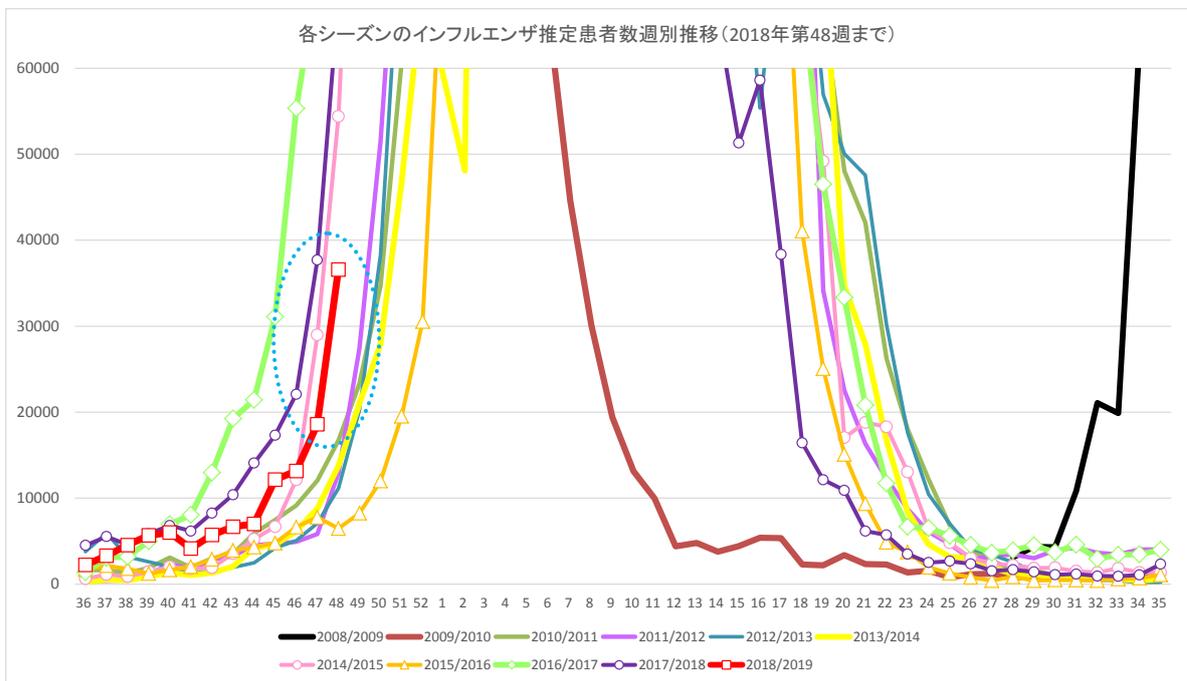


図 1. 過去 10 シーズンと今シーズン (2018/2019 年シーズン) の第 36～第 48 週までの  
インフルエンザ推定患者数の週別推移 (第 48 週の推定患者数 : 36,580)

各都道府県別の第 48 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると福井県、

北海道、三重県、富山県、愛知県、長野県、和歌山県、香川県の順となっていて、41都道府県で前週よりも患者数の増加が見られています。

2018年第36週から第48週までの累積の推定患者数は12,5757であり、年齢群別では5～9歳（19.5%）、40～49歳（13.3%）、30～39歳（12.7%）、10～14歳（11.8%）、0～4歳11.3%の順となっていて、小児の罹患者の割合が増加しつつあります（図2）。

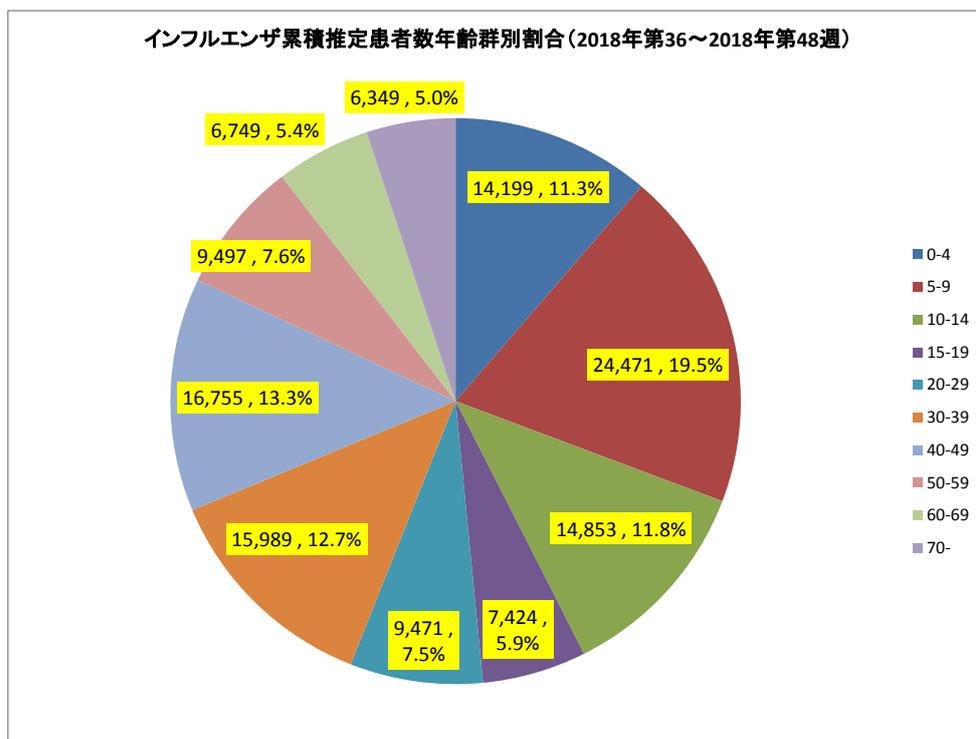


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2018年第36～2018年第48週、累積推定患者数=12,5757）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（203検体解析）は、A/H1pdmが72.4%と多く、次いでA/H3（A香港）亜型25.1%、B型2.5%の順となっています。

昨シーズンよりは1週間遅くなりましたが、今シーズンは11月の最終週（第48週）からインフルエンザの全国的な流行が始まりました。12月に入って流行はさらに拡大していくことが予想されます。インフルエンザの患者発生状況には充分にご注意ください。